

奈良教育大学同窓会会報

まほろば

第26号



目次

- 会長挨拶 2
- 平成25年度活動方針、学長挨拶 3
- 平成24年度同窓会一般会計決算書 4
- 平成24年度会務報告 5
- 同窓会だより (1) 総会に集まろう 6
- (2) 児童文化部エコー 8
- (3) 林 宏先生を偲ぶ会 9
- 研修会だより、表紙の絵について 10
- 平成24年度研修委員会報告、親睦会ご案内 11
- 事務局だより 12

**2014年
同窓会総会**のご案内

■ **と き**
平成26年5月18日(第3日曜日)
午前10時から

■ **と ころ**
奈良教育大学 山田ホール 他

○出席者は、準備の都合上、
5月9日(金)までに事務局へ
お申込みください。

◆ ご挨拶 ◆



若葉のきれいな季節となりました。今年もまた同窓の皆さまと再会できました。さて、教育大学は今年で125周年、わが同窓会は123才を迎えます。

1888年奈良県尋常師範学校として発足し、1949年には奈良学芸大学に改組、1966年には奈良教育大学と改称し今日に至っています。起源を1874年明治7年の寧楽書院にさかのぼれば139年目にあたるわけです。そして同窓生も25,000人を超え住所の分かった会員はおよそその半数に達しています。残りの半数には故人を含むわけで、同窓会員の確認は3分の2程度かと予測しています。今現に地球上で1万数千人の同窓生が活躍していると思うと、誠に心強い思いが致します。

先月二つの同窓会支会に参加させていただきました。大阪市の興東会と天理市支会です。ご存じのように大阪市興東会は、この大学出身で大阪市の教育関係者で作られています。新しく採用された者から既に退職された方まで折々に集いを持っておられます。新しい仲間を迎えた歓迎会、中堅教員の研修会などよく考えられたプログラムの下で、後輩を引き上げるべく、発奮させるべく、教育に携わるものの資質と技量の向上に努めておられます。天理市支会では、和気藹々とした雰囲気の中で今回は学寮の思い出が語られました。師範学校時代の全寮制の寮生活、学芸大学時代の桜寮の思い出が、昨日の

会長 西田 史朗

ことのように話されました。戦中の先輩の指導下の寮生活、戦後の食糧も不足がちな寮生活、新築の桜寮の思い出など懐旧の思いに浸る一時でした。

かつて本学心理学の先生に、「気」についてお聴きしたことを思い出しています。毎日の生活で大切なのは「元気」です。教育に関わっては「根気」「やる気」あるいは「勇気」。世の中ではアベノミクスが姦しいことですが、「景気」も人々の気持ちのまとまりであり昂揚です。病は気からと申します。同窓の皆さまも気持ちを引き締め、元気にお過ごし下さい。そして母校のために、同窓会のためにご理解とご協力をお願いいたします。今年の総会ではまたまた会則の改正をご議論いただきます。会費納入を一括納入終身制にする提案です。同窓会の安定した継続のための方策の一つと考えました。よろしく、ご議論下さい。その後ではアトラクションと懇親会が待っています。今日一日を楽しくお過ごし下さい。そして来年もお元気なお姿をお見せ下さい。

追記

今回の会則改正については、予定時間を大幅に超える議論があり、役員会、理事・評議員会での完全一致を見ていない提案であること、当事者である新会員の同意を得ていない提案であることなどが指摘されました。例を見ない議論の紛糾を勘案し、発案者である会長が本案件を取り下げ終結しました。議論の流れから今後終身会費制への移行は、ほぼ断ち切られるものと考えます。今後も同窓会は苦しい緊縮運営が続きますが、どうか良いお知恵をお貸し下さい。

平成25年度 活動方針

本大学は、国立大学法人奈良教育大学として、中期目標期間9年を経過し、第2期へ更なる発展を目指して邁進している。同窓会としては、本来の目的に従い、大学の運営方針に寄り添って協力し、同窓生の心のより所として前進していきたいと考えています。

理 念

- 会員相互の触れ合いを大切に、
親睦を深める。
- 学び合い語り合う場を設定し、互い
に教養を高める。

重点目標

1. 会員意識の昂揚をめざし、会費納入の徹底を図る。
2. 支会活動の活性化をめざす。
3. 同期同窓会の組織運営を強化する。
4. 大学の発展に思いを致し協力する。

教員養成の高度化

学長 長 友 恒 人

同窓会会員の皆様、奈良教育大学への物心両面にわたるご支援に心から感謝申し上げます。

昨年度の「まほろば25」号のご挨拶では、学部改組によって全学が教員養成に立ち戻り、「実践型・体験型」の教員養成を本格的にスタートさせたということをご報告申し上げました。

その後、昨年8月に中央教育審議会の二つの重要な答申が出されました。一つは、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」であり、学部の教育一般に関するものであります。二つ目は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」であり、大学における教員養成段階のみならず生涯を通じて成長を続ける教師像を求めるものでありました。二つの答申に共通しているのは、「主体的に学び続け成長する」ということです。

同窓会の先輩諸兄姉が今も学び続けておられるのは、「学ぶ事の楽しさ」や「知る事の楽しみ」を体験されてきたからではないかと思えます。大学で学生の教育を与る者として、学生たちが「楽しんで学ぶ＝学ぶ事を楽しむ」ことを身につけ、今すぐに役に立つとは思われない事にも興味・関心に従って深め、結果として人間味豊かな教員となることを願っています。

さて、学校教員を「高度専門職業人」と位置づけた中央教育審議会の答申を受けて「教員養成の高度化・修士レベル化」に向け、鋭意検討をしているところです。また、文部科学省の補助金を得て、京都教育大学、大阪教育大学との連携事業「『学び続ける教員』のための教員養成・研修高度化事業」を平成29年度までの事業としてスタートさせました。

奈良教育大学では引き続き、教育委員会や学校との連携を軸に据えて、「実践」を重視し、「学校現場」の応援を仰ぎながら、新しい課題に対応できる主体的な教員の養成を、「21世紀型の高度専門職業人」と位置づけて、全学を挙げて取り組んでまいり所存です。会員の皆様のご助言、アドバイスをお願い致します。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と同窓会のご発展を祈念し、母校のために物心両面からのご支援とご指導を今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成24年度 奈良教育大学同窓会一般会計決算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

24年度の会計決算は下記のとおりです。予算額ならびに比較増減は省略しました。

(歳入の部)

単位:円

款	項	本年度予算額 (A)	本年度収入額 (B)	比較増減額 (B-A)	備	考
会費		4,512,000	4,435,520	△ 76,480		
	1 通常会費	4,012,000	3,857,520	△154,480	1,880 × 901 = 1,693,880 1,920 × 379 = 727,680 2,000 × 356 = 712,000 2,880 × 72 = 207,360 2,920 × 21 = 61,320 3,000 × 42 = 126,000 3,880 × 1 = 3,880 3,920 × 2 = 7,840 4,880 × 9 = 43,920	4,920 × 7 = 34,440 5,000 × 19 = 95,000 8,000 × 1 = 8,000 9,280 × 4 = 37,120 9,880 × 6 = 59,280 9,920 × 1 = 9,920 10,000 × 1 = 10,000 19,880 × 1 = 19,880
	2 入会金	300,000	358,000	58,000	2,000 × 179 = 358,000	
	3 臨時会費	200,000	220,000	20,000	2,000 × 110 = 220,000	
寄付金	寄付金及び広告料	0	0	0	寄付金等	
繰越金	前年度繰越金	190,134	190,134	0		
利子	利子及び雑収入	0	260	260	貯金利子	
合計		4,702,134	4,625,914	△ 76,220		

(歳出の部)

単位:円

款	項	本年度予算額 (A)	本年度収入額 (B)	比較増減額 (B-A)	備	考
事務費		1,680,000	1,538,749	141,251		
	1 報酬	840,000	840,000	0	事務局長報酬	
	2 諸手当	300,000	300,000	0	交通費、諸手当	
	3 役員旅費	300,000	280,640	19,360	役員会旅費等	
	4 備品費	150,000	86,205	63,795	コンピューター周辺機器	
	5 消耗品費	30,000	5,032	24,968	印刷用紙他	
	6 通信費	60,000	26,872	33,128	切手、ハガキ等	
会議費		470,000	382,930	87,070		
	1 役員会費	40,000	12,110	27,890	役員会、理事会、評議会、委員会等	
	2 総会費	430,000	370,820	59,180	放送機器操作、懇親会等	
事業費		2,540,000	2,373,468	166,532		
	1 会報発行費	2,200,000	2,078,570	121,430	会報「まほろば」25号発行	
	2 会員慶弔費	30,000	9,948	20,052		
	3 新会員歓迎費	250,000	284,950	△ 34,950	入会歓迎会費、記念品(筒)、袋	
	4 事業活動費	30,000	0	30,000	研修会	
	5 事業基金	30,000	0	30,000		
予備費		12,134	5,000	7,134		
	予備費	12,134	5,000	7,134		
合計		4,702,134	4,300,147	401,987		

差引現在高 4,625,914 - 4,300,147 = 325,767円

会費納入についてのお願い

同窓会の年会費は一口1,000円、2口以上です。下記の何れかの方法で納入して下さるようお願いいたします。

1. 直接現金。
2. 同封の振替用紙をご使用ください。
(振替先は00900-2-9400です。できればATMを利用してください。)
3. ゆうちょの貯金口座を持っている方は通帳やカードを使って手数料無料で送金できます。

監査報告

平成24年度の会計資料について監査を行いましたところ、諸帳簿等はよく整備され、正確適正に処理されていたことを認めます。

平成25年4月1日

会計監査 山田 恵敏 ㊞

峯田 孝治 ㊞

平成24年度 会務報告

24年4月5日 大学入学式。会長、副会長出席。教育学部274名、大学院92名、特別支援教育特別専攻科10名、合計376名。

24年4月6日 会計監査委員会。会長の立会いのもと監査を受ける。

24年4月9日 拡大会議開催。各委員長さん出席のもと会則改正等、慎重に審議する。また、平成23年度会務報告、決算、平成24年度活動方針案、予算案等の審議をする。

24年4月19日 理事会・評議員会開催。出席30名。学長から、今年度より全て学校教育教員養成課程の入学者とし教員養成の高度化に取り組む等、現場で即役立つ教員養成への方針を聞く。次に、平成23年度の会務報告、会計決算、監査報告。平成24年度の基本方針案、活動方針案、予算案、役員構成案等を審議した。

24年4月21日 大阪市興東会総会開催。大阪市内に勤務する小学校教員だけで組織する会である。組織立てが確立されていて委員会活動も活発に機能している。平成23年度の事業報告を始め役員選出も順調に決定した。平成24年度案も慎重に審議され議決された。懇親会も工夫され団結の強さ、一人一人の力を発揮できる体制も整い活動されている姿に感動。

24年4月29日 天理市支会総会開催。竹中会長を中心に、先輩の菅原さんの力添えが素晴らしい。また、いつも同窓会に心を寄せてくださっている方々の不断の取り組みがあることに感謝。新しい出席者もあり今後益々発展する予感を抱く。後日81名もの会費を持参して下さる。本当に有難い。

24年5月18日 総会準備、資料綴じ。会長、副会長、理事、評議員さんのご出席をいただき作業をした。

24年5月20日 平成24年度総会開催。長田顧問、長友学長、加藤副学長、大久保元学長、奥田名誉教授、石崎名誉教授ご出席くださる。会員120名、総会費納入者110名。長友学長が今年度の学校教育教員養成課程の募集とその取り組みを詳細に説明された。総会は、超高齢者の方々の出席で成り立っていると言っても過言ではない。昭和20年女子師範卒10名の出席を始め、120名もの出席をいただき盛大に開催することができた。本当に有難いことである。会則改正案、会務報告、決算報告、活動方針案、予算

案等、満場一致で採択していただき全て承認された。アトラクションは、ピアニスト島崎始子氏のピアノ演奏から始まった。素晴らしいピアノタッチに感動。続いて詩吟、峯田孝治氏の朗吟に感銘。次にジャズとピアノの弾き語り、中岡清風氏の素晴らしい歌声とピアノに圧倒された。その後に奈良教育大学楽桜混声合唱団が同窓会に相応しく郷愁を誘う「ふるさとの四季」数曲を披露してくださった。会場の皆様も子ども時代を思い出しながら心で歌っておられたと思う。最後に、「見上げてごらん夜の星を」「ふるさと」を全員で合唱した。なんだか涙が溢れてきてその処理に困った。会員同士で創り上げたアトラクションを演出でき皆様方に喜んでもらえた。懇親会が一層盛り上がり和やかな声が会場に溢れた。「来年もまた参加できるように精進していこう」といった声に励まされつつ名残惜しいが14時30分散会。

24年5月23日 広報委員会開催。会報「まほろば」25号発刊にむけての編集会議を行う。(6/4、6/15、6/19も同様)

24年6月24日 五條市支会総会。総会、講演会、懇親会等、運営の仕方がとても上手い。懇親会は老いも若きも打ち解けた雰囲気では盛り上がった。

24年6月25日 「まほろば」25号発行・発送の準備に取りかかる。住所確認者13,916名に発送。その後268部返送。住所変更届をして下さっていない方が多い。

24年8月25日 東大阪市支会総会開催。久しぶりに再会する方々の話はずみ、懇親会は非常に盛り上がった。一昨年は若い人たちが参加していたのに今回は少なかったため、次回こそ若い人たちがたくさん参加してくれるよう取り組みもと盛り上がりを見せて閉会した。

24年9月27日 本例会開催。総会以後の様々な案件を報告。理事会・評議員会に向けての案件を審議する。研修会への出席要請をどう工夫するのか等、議論を重ねた。

24年9月28日 大学中間卒業式。学部生8名、修了生2名。その内7名が同窓会に入会してくれた。会費を8口納入して下さった修了生もいた。

24年10月14日 第二回楽桜会コンサート開催。ならまちセンター市民ホールで、一般市民を巻き込んで開催され大盛況であった。フルート

演奏、ピアノ独奏、ソプラノ独奏、チューバ独奏、創作ミュージカル、混声四部合唱と盛りだくさんのコンサートでとても感動した。

24年10月25日 理事会・評議員会開催。31名出席。長友学長より大学の現状を報告していただく。総会以後の詳しい報告をする。11月の研修会にできるだけ都合をつけて出席していただきたいことを研修委員さんからも訴えていただいた。

24年11月7日 研修会の最終打ち合わせを講師、佐藤直子氏を囲んで中谷副会長、松原副会長、杉本事務局長で話し合う。出席者はどれくらいだろうか心配ばかり。佐藤氏は「ほんの数人でも」とおっしゃってくださるが…。

24年11月17日 研修会開催。「短歌に魅せられて30年 楽しみか 苦しみか？」講師の佐藤直子氏。奈良教育大学同窓会に相応しい格調高くアカデミックな講演会を計画でき嬉しく思っていたし、楽しみにもしていた。天候が不安定だったが出席者40名を超え盛大に開催することができ嬉しかった。さすが、奈良教育大学同窓会だと誇りに思った。佐藤氏の短歌への情熱を自作の歌を通して丁寧な解説してくださった。

24年11月18日 大阪市興東会退職校長会総会開催。前校長、元校長33名と現職校長5名出席されて盛大に開催された。第一部に総会、第二部は懇親会。

24年11月24日 大和郡山市支会総会開催。格調高く、今年も元同窓会会長の井上氏が独特の話し口調「鉄道の細道」…160円の切符で丸一日の旅の満喫…の講演があった。

ユーモア有り、感心させられること有り、その博識振りに驚いた。懇親会も和気藹々とした雰囲気であった。

24年11月25日 磯城郡支会総会開催。中村理事、松村・吉村両評議員さんのご努力で初めて

参加された方も多く、事業報告、会計報告、役員選出、事業計画等、審議された承された。懇親会も和やかな雰囲気会で会員相互の親睦がはかられた。大学名誉教授の奥田喜八郎氏も田原本にお住まいということでご出席くださった。

24年12月1日 奈良市支会総会開催。長友学長が母校の現状と今後について報告くださった。出席者の顔ぶれも新しい方が多く、念願の40名を超えそうな勢いを感じた。役員選出もスムーズに進み、2~3名以上の出席者を誘うことで盛大な会になるよう努力していこうと話合われた。

24年12月25日 理事・評議員年忘れ研修会開催。長友学長、大久保元学長、長田顧問はじめ会長、副会長、監事、理事、評議員26名が出席。打ち解けた雰囲気のもと、今後の同窓会の在り方や若い方の心を惹きつける取り組み等、真剣に話し合われた。出席者一同同窓会発展に寄与していくことを確認し合った。

25年1月7日 大阪市興東会新春総会開催。現職、非現職30名以上の出席。先輩後輩の連携がとて密で同窓会意識も高く深いことに感動。卒年の違う出席者の層の厚さにも感心した。

25年2月23日 大阪市奈良教育大学同窓会開催。大阪市の幼稚園、小学校、中学校に在籍する若い方の代表者が70名参集され親睦を深めた。校長先生方が積極的に世話される姿が微笑ましかった。

25年3月25日 大学卒業・修了式。会長、副会長出席。学部生257名、院生74名、特別支援教育特別専攻科11名、合計342名。理事、評議員が入会手続きの事務を手伝って下さった。新会員に172名、平成25年度会費納入者が131名。昨年より50名近く多い入会であった。大学OB4名の先生方の応援も良かった。

同窓会だより

(1) 総会に集まろう

「想」 総会参加への思い

昭和29年卒 島崎 寛

昭和29年(1954)卒業(文甲)以来59年、来年3月で還暦と同じ年数を迎えます。卒業のこの時より同窓会の一員として仲間入りしました。

総会への参加は退職後から始まり多くの先輩たちに助けられたものです。会の役員の方々には言うまでもありませんが、同期の大西重次君、

増田義和君ら同期仲間の総会参加を促し、総会の盛り上げに努力してくれました。とりわけ、増田義和君には総会参加申し込みなどの世話もしてくれて非常に感謝しています。また、今は亡き小川前会長からも親しみに満ちた勧誘を受け感激したものです。この様な事情の中で参加する年一回の総会は、大学の歴史の中で生まれる先輩、後輩の出会いであり、昔を語り合える憩いのひとときでもあります。

さて、われわれの所属する同窓会、これに似た組織は、日常の社会に色々な形態で存在します。例えば、大学などと結び付き研鑽など目的にしているグループ・互いの趣味を共有し楽しむグループ・職場でのかかわりで結び付く種々多様なグループなどがあります。一人ひとりが異なった組織のカテゴリーに共鳴しながら参加し活躍しています。しかし、願いや意欲にかかわらず減少の傾向にあります。これらは、私を含めた同年輩の多くにみられる姿の様に思います。現に昭和29年卒「文甲」同窓会は色々な事情で開催困難です。しかし総会に出席するものは、総会組織の機能の中で、同期同窓会としての「ふれあい」の場として、これを生かし再

会を楽しんでいます。この事実は大学同窓会としても、個別同窓会にとっても、そのあり方に理想的な姿を感じとれます。高齢化する同窓会の求める生きた姿の様です。この意味で総会に多く出席し総会の機能を十二分に発揮し「ふれあい」の場や人生の喜びを感じたいと思います。総会参加を通して「文甲」同窓会を組織していただいた諸氏に対し感謝の意を表したい。

◎参考までに

●第1回 平成13年(2001)1月27日

奈良春日野荘にて (参加18名)

開催テーマ

・亡き友を偲び古稀を記念して新世紀幕開けを祝して大西重次・郡瑠三君らを中心に準備委員会をたちあげ開催を計画、実施する。

●第2回 平成15年(2003)4月30日

吉野下市温泉・秋津荘にて (参加11名)

開催テーマ

・早くも黄泉の国に旅だった友を思いでに懐かししの友との出会いを楽しみ、生かされていることに感謝する会。谷車真澄君ら吉野周辺の同窓の方々によって計画準備して開催される。

●「文甲」(昭和29年卒)同窓会会計について2回開催されて経費の残高10,062円を奈良教育大学同窓会に寄付してあります。

昭和31年入学 理科の会

昭和35年卒 西田 史朗

我々のクラス会の名称です。今年も梅雨の前にと、恒例の集いを持ちました。大阪鶴橋・明月館、今回は9名でしたが京城宮廷料理を満喫、したかどうか。

二部理科甲類が正式なクラス名です。総勢10数名ですが、いろいろ事情があって数学科の数名と医大進学の名が今も一緒です。入学の前年まで奈良医大進学コースが理科丙類としてあり、我々の入学時から無くなりました。そのため医大進学希望者が理科甲類に入学し、医大へ転入していったわけです。そうしたわけで入学年をクラス名に付し、今なお仲良くお付き合いが続いています。

思い返せば「二部」の名は、いろいろ誤解を生んでいたようです。今では考えられない事柄ですが、時には不利な扱いを受けたこともあったようでした。多くの大学では一部は昼間コース、二部は夜間コースを指していました。この大学にも一部があり二部があったのですから、事情の分からない方にはそうした理解が普通であったのでしょう。

われわれの前年までは教員採用は絶望的な

状況でした。わたくしも早々に証券会社に内定していたのですが、突然のように様子が変わり、大阪市の教員に転身。理科の全員が大阪市内に就職したものですから、地元就職が零で多少の物議があったと聞いています。そして何とか、今では全員年金暮らしの後期高齢者。まあ皆さんお元気な様子、暫くはこの調子で続くことでしょう。

入学当時、大学は地の利に恵まれた登大路にありました。現在の奈良県庁の所です。死語のようですが代返とエスケープは、このクラスの為のよう。講義開始は、集合の時と場。天気が良いとソフトボール、寒い冬の日には電気館、学食でうどんかカレーを食べた後は、ふる里のさか餛でだべりか、太陽へ。前半期はそんな調子、教育実習を終えた頃からは多少は真面目になったか。多くは35年卒業ですが、その後の進路は企業と教職、全員が京都市・大阪市内に就職しました。

そうしたこともあり集まりやすく、喜寿を迎えた今日に至っているわけです。来年は総会に合わせて高畑に集う約束です。

(2) 「児童文化部エコー」の同窓会 夏の「巡回」思い出めぐり

昭和44年卒 出原 威佐夫

「児童文化部エコー」と言えば、本学が「奈良学芸大学」と称した時代にあつて、部員数50名以上の極めて活動的なサークルでした。

児童文学・人形劇活動・地域子ども会活動の分野で、熱心に児童文化活動を進め、奈良子どもまつりやへき地の学校へ巡回公演に取り組んでいたものでした。最近では、もう「全教ゼミ(全国教育系学生ゼミナール)」とか「近教ゼミ(近畿教育系学生ゼミナール)」と言っても、何のことも多分理解してもらえないと思いますが1969年には、本学を会場として1600名の参加で第15回全国大会を開催するなど、当時はずいぶん元気な活動をしていました。そんなサークルのOB・OGたちが年代を超えて、暮にはこの数十年にわたって毎年12月26日に同窓会を開催。そしてここ数年は、夏に巡回公演活動の思い出の地をめぐる合宿を実施、今年でもう8回目となりました。

第1回 2005年8月4～5日

川上・上北山を訪ねて 宿泊 川上村ホテル
杉の湯 参加23名

第2回 2006年8月7～8日

大塔・天川・野迫川を訪ねて 宿泊 民宿吉
野屋 参加16名

第3回 2007年8月1～2日

人形劇のふるさとを訪ねて 宿泊 淡路島
ウェスティンホテル 小南先輩の「冒険の森」
(淡路島 楠本)訪問 大鳴戸橋記念館 人形
浄瑠璃鑑賞 参加22名

第4回 2008年7月31～8月1日

昨年に続いて淡路島 宿泊 東浦サンパー
ク 参加22名 震災記念館 学習小学校見
学

第5回 2009年7月30～31日

十津川村巡り 宿泊 ホテル昴 星の湯
谷瀬のつり橋 絶景笹の滝見物・歴史民族博
物館 玉置山(玉置神社) 参加21名

第6回 2010年7月29～30日

天川村・黒滝物語めぐり 宿泊 森の交流館

天川弁財天神社拝観 参加22名

第7回 2011年8月1～2日

柳生ロマンの里を訪ねて 宿泊 レイクフォ
レストリゾート 同級生 田畑さんの円成寺
拝観 柳生の里散策 参加25名

そして今回が第8回目、2012年8月1日～2日思い出の地巡りの一応の締めくくりとして、母校と高畑界限を訪ねました。宿泊は奈良猿沢荘 参加18名

大変な猛暑でしたが、矢追先輩の熱心な案内のもと、38連隊跡、吉備塚、資料館、新薬師寺金堂跡など、しっかりと見て回りました。お昼は、大学食堂で、前期の試験中の大勢の学生たちに混じっての昼食、多彩なメニューで経済的な価格、とてもおいしくいただきました。午後、写真館で入江泰吉氏の偉業、そして、新薬師寺の国宝の仏たちに感動しながらも少々お疲れ気味なので、早めに猿沢 荘にチェックイン。熱いお風呂と食事に満足、二次会もいつものように大笑い。夜遅くまで、おしゃべりとオリンピック談義に花を咲かせました。二日目は奈良町の見学。御霊神社の幣額、石碑の文字にかけられた深井先輩のお話、これまでの作家としての歩みとともに一つ一つの作品に込められたご努力も含めて深いお話をお聞かせいただきました。興福寺国宝館の見学、月日亭の食事で今回の同窓会を閉じさせていただきましたが、本当に楽しい時間でした。いつものようにご参加の先輩方々のお心遣いに感謝。また、大学での同窓会ということで、同窓会事務局の杉本先生のお心遣い、まことにありがとうございました。



第5回 十津川巡り 2009年7月30日

(3) 林 宏先生を偲ぶ会

昭和29年卒 西瀬 英夫

○第11回 林 宏先生を偲ぶ会

(第7回研修会、平城京跡探訪)

10時、探訪ツアーセンター前に集合した13名。「1時間半ほど自由見学どうする?」「林先生なら、もう歩いているよ」結局、みんなそろって遣唐使船・朱雀門・第一次朝堂院そして一番遠い東院庭園まで。井上裕通氏(伊丹)の「恩師の健脚に負けずに頑張りましょう ハートフルカート乗らへんの 天平茶会、一服欲しかった 自由見学も疲れます」「時間なし」「予約(事前に)必要」世話人のお詫び。

11時半、1ヶ月前に予約した専門ガイド付き平城宮跡探訪ツアー、10分ほどのコース説明の後スタート。熱心な専門ガイドさん、我々のグループだけでなく一般の人の質問にも答えてタイムオーバーの13時半。慌てて「かんぼの宿、奈良



へ。午前中、私用で直行の井出駿氏(奈良)も加わり「若草料理」の昼食と一杯。おあと林先生を偲んでの懇談。「林先生なら、この平城遷都1300年祭をどうみた」にはじまり、「天平美人にも会えた」「木簡発見は大宮人のトイレあと」「ひとり300円のガイド料も奈良らしいし、特別イベント、時間待ち、有料、考えもの」「高齢者の会場内移動のハートフルカート」に我々はまだ若いのでと。

菊香る平城京で師を偲ぶ ひでを

乾杯の音頭をとっていただいた山岡伸吉氏(樫原)からの礼状を紹介して。「林先生を偲ぶ皆様方それぞれの思い出を聞かせて頂き、先生の人徳の深さに今更感動を感じ、時の過ぎるのを忘れてしまいました。」

今回の遠距離参加は岡山市からの松本京子さんでした。

○第12回 林 宏先生を偲ぶ会

(第8回研修会、奈良町散策)

「さあ、今日の地理実習はならまち、元興寺旧境内を中心とした一帯、格子をもつ町家の町並み、大根とコンニャク田楽の庚申堂、身代わり

猿etc、ラストは文殊庵でコーヒータム。「そうやな、大西重次君にとっては「ならまちは吾が家の庭」か。昭和26年か。」正月きたら雪みたいなママ食べて、割木みたいなトト添えて、碁石みたいなアモ食べてコタツにあたってねんねこしよう!」(大和のわらべ唄)も林先生に習ったもの。

10時半、近鉄奈良駅行基像前集合に12名(遠くは福井からの永井明江さん、岡山からの松本京子さん)。黄色のジャンパー「ならまちツアー」の旗をもったガイドさん数人に海外出張から帰国されたばかりの確井照子さん(奈良大学地理学教授)もびっくり、奈良町散策ガイド配布。東向き通り一猿沢池一元林院町一なら町情報館一なら町物語館一格子の家一音声



館一御霊神社一元興寺塔跡一江戸川なら町店。12時半、明治初期、関家(代々呉服卸商)築140年の町家建築(史的にみても奈良町奥の隠れ家)の江戸川なら町店で昼食と懇談。

体調不良の中上武二氏(奈良)も奥さんに車椅子を押してもらっての参加で14名に。

大和野菜と国産鰻の特別料理会席で乾杯の音頭は稲浦清英氏(生駒)。「林先生といえば鰻ではなくて富山湾の蛍イカ」の代表早瀬哲恒氏(京田辺)の挨拶から。

江戸川の鰻肴に師を偲ぶ

水害の天川想い師を偲ぶ ひでを

十津川の大水害の話も出て不参加の返信ハガキ54葉の中から谷口千代子さん(生駒)の「大水害の十津川村の姿を林先生はあちら側からご覧になって心を痛めておられることでしょうね」を紹介。

30分ほどの集中豪雨のような雨が止み、16時前。これも林先生のおかげで解散。



研修会だより

「短歌に魅せられ 30 年、楽しみか、苦しみか？」 をお聞きして…。

昭和35年卒 上村 豊

小雨降る11月17日、山田ホール談話室で、佐藤直子先輩の講演をお聞きして感じた事、今後の私の自詠歌を短冊や色紙に書くヒントを与えてもらった事で、嬉しかったです。有り難うございました。

さて私が、第13回研修会に参加しようと考えたのは、アララギ派の歌人「上村孫作」に手ほどきを受けた事があり、一甲を卒業して7年後の昭和42年4月から一年間の内地留学で母校特書科の専攻科で学んだからです。特に「仮名」に力を入れ、関戸本古今集・高野切・継色紙・寸松庵色紙等中心に勉強したものです。

卒業後、小学校から高等学校へ転勤になり、文化祭には「小倉百人一首」を生徒たちに書かせて展示したものです。

ところが、かつて手ほどきを受けた上村孫作先生の言葉を思い出したのです。「他人の歌を書くのも良いが、時には自分の歌も短冊や色紙に書いてみては…」との言葉です。

さあ、それでは自詠歌を毛筆で書いてみようかと心に誓ったものの、上村孫作先生は他界されていて、昔手ほどきを受けた頃の資料を取り出したのです。でも記憶も薄れ、資料も欠けていたりで困りはててしまい、自詠歌をやめようかとすら思ったものです。

しかし、上村孫作先生に申し訳ないと考え、独学で短歌を作ってみようと思ひ、短歌入門書を数冊買い求めて、勉強し始めたものです。こんなことなら、上村孫作先生ご存命中にもつ

とご指導を受けておけば良かったと後悔の毎日です。

そんな折、同窓会報「まほろば」で佐藤直子先輩の講演案内が目にとまり参加しようと思ひましたのです。少し早く着いたので同じ山田ホールで開催中の書道科一回生展を見せてもらい、私には一石二鳥の思いです。

佐藤直子先輩も「アララギ」に入会されているので、上村孫作先生の話は勿論の事、土屋文明先生の短歌やエピソード等、幅広く講演して頂き、参考になり、今迄の私の悩みを一気に払拭してもらった感じで嬉しさ一杯で、自宅に帰っても喜びが湧いてきました。そして、早速ペンを取り、お礼を込めて書きました。

本当に有り難うございました。

先生と植ゑし石楠花大樹かな
星霜重ね学び舎変わりぬ
いつまでも恩師の教え守りつつ
百日草も小菊も咲きつ
七十路半自詠歌作り芽が生えて
遅咲きの花いづれ色紙に
たらちねの母の姿も今は無く
師走の空に輝ける星に
吾が妻も極楽浄土へ旅立ちて
孫に励まされ寒さ忘るる
今年こそ今年こそはと今年も思う
来春こそは自詠歌の旅
自詠歌を短冊色紙にすらすらと
墨の香散りて初春を待つ

表紙の絵について

昭和43年卒 亀川(西山) 裕子

「新緑の大仏殿」

毎年、春から初夏の頃になると、美術科の学生だった私は、「風景週間」のことを懐かしく思い出します。

校門を出て、「飛火野」「浮御堂」「ささやきの小道」から「春日大社」「大仏殿」へ

と、奈良公園一帯をモチーフになる場所を探して、スケッチブックを抱えてあちこち歩き回ったものです。

この「新緑の大仏殿」は、こんな思い出深い場所を描いた作品の一つです。数年前に製作したのですが、私にとりましては忘れられない作品です。

平成24年度 研修委員会報告

平成24年度、奈良教育大学同窓会研修として、本学の卒業生でもある、佐藤直子氏を講師にお招きして、昨年11月17日に『短歌に魅せられ30年、楽しみか、苦しみか?』の演題でご講演いただきました。

本学同窓会の研修では「短歌」については今回が初めてで、どれだけの会員が出席してくれるのか心配でした。しかし、そんな心配は取り越し苦労、多くの会員の参加があり、講演が始まると講義に引き込まれていきました。

「青嵐」のあとがきでおっしゃっているように、『詠むことは楽しみであり、また苦しみでもあります。』と詠むことの歓びを、私たちにそこはかと話しかけているように感じ、続いて「目に見えぬもの、歌はむとす」と直子氏の短歌に対しておられる姿勢を読み取ることができました。

また、歌を詠む中に心を写す、「写生」自分の心のありようを言葉にし、「詠み続けるほどに自分で自分が分からなくなっている」と、常に自分

の内面に問いかけていらっしやる姿こそ、私たちを短歌に魅せられるもの、惹きつけるものがあることを、教えていただいたように思います。

「見ることは思うこと」では、歌を詠むことの厳しさも感じました。

師、土屋文明氏についてのお話もありました。

『気取らぬ詠みの中に音読して調べが美しく、森羅万象を慈しむ作者の思いが滲み出て心象詠として格調高い』など学ぶべき歌の基本が数多く示され、時代を超えて不滅の価値が存在する。と直子氏は、文明氏をとらえておられることも伺うことができました。

気が付いたときは、予定していた時間は少々過ぎてはいましたが、直子氏の熱のこもった講演につい引き込まれ、『短歌に魅せられておられる』、直子氏の生き様。

捨て鉢に生きる強さを求めむと

木枯らしの中にぐいと踏み出す

強さを感じました。

外は激しい雨、素晴らしい講演に感謝しつつ。

研修委員

● 第13回 一日親睦会のご案内 ●

東吉野には原 石鼎の句碑を始め、多くの俳人の句碑が点在しています。また、東吉野には維新の魁でもある、天誅組の終焉の地でもあります。

記

■日時 平成25年11月16日(土)

■会場 東吉野・石鼎庵

丹生川上神社・平野天好園庭園

■集合・発車時刻

奈良(商工会議所前) 8時00分

天理(JR駅前) 8時20分

八木(近鉄八木駅南側バス停) 8時40分

大宇陀(道の駅駐車場) 9時20分

■親睦昼食会 天好園

(たかすみ温泉入湯・昼食)

■奈良着予定 16時30分~17時00分

★詳細については、参加者決定後、ご案内致します。

■申込先・問い合わせ

研修会担当者

TEL&FAX 0743-56-4845

TEL 090-3659-7222 (中谷)

■締め切り日 11月1日(金)

■会費 6,000円

当日に集金いたします。

事務局だより

- 母校奈良教育大学は、昨年度、平成24年から定員を全て教員養成課程にし、教員養成に力を注ぐことになっています。大学は時の利を得て不況・不景気の中、教採枠は、まだ増え続けています。今年も奈良県教員採用枠は450名程度となっています。奈良県に就職したい学生も増えています。全国には、教員養成系大学がたくさんありますが本学の教員採用率は第4位です。そして今年も25都府県へ卒業生・修了生を送り出しています。ますますの健闘を祈りたい。
- 年々同窓会会費の納入率が落ちてきて二割をきりました。現在の会費納入では、通常の運営にも支障をきたしています。そこで、会則を改正し、一口1,000円、二口以上の納入を総会で決定させていただきました。中には三口・五口を振込んでくださる方々もおいでですが、今年も一口でも多くお願いできれば幸いです。よろしく願います。振込みの際も、窓口で振込んで頂くと手数料が120円かかります。振込んで下さる際にはATM(自動預払機)を。もしくは、現金書留・郵便局通帳から・同期同窓会幹事様・お近くの理事・評議員の方々に預けて頂いて事務局に届けて下さると幸いです。
- 会員の死去に際しては、弔電を打っていますが、知り得るのは新聞紙上や会員よりの連絡等に限定されています。特に女性の方、県外の方の消息はつかみかねています。ご連絡をよろしく願います。最近、家族葬が増え、新聞に掲載されることも少なくなり、会員の死去を知ることの機会がなくなってきました。是非ご連絡をお願い致します。
- 同窓会のホームページを年々更新していますが、すでに19,000名の方々がホームページを開いて下さっています。感想等お寄せ下さい。
ホームアドレス・連絡先を下記に記しますので、転居・改姓・住居表示変更の場合速やかに事務局までお知らせ下さい。毎年、250~270名前後の住所未確認者が出ています。
<http://www.nara-edu.ac.jp/home-jp.htm>
奈良教育大学のホームページを開いていただいて、そこから同窓会のホームページを開くことができます。

- 同窓会への連絡には、下記の方法があります。

郵便:奈良教育大学内 同窓会事務局
電話:0742-27-9105 (大学総務課経由)
0743-77-8848 (事務局長自宅)
090-1022-8370(事務局長携帯)

E-mail sugimoto@nara-edu.ac.jp
事務局長は、昭和37年卒の杉本彦之です。

- 個人情報の保護には、万全を期しています。お問い合わせの内容によって不本意な回答になるかとも思いますが、ご理解下さい。

編集後記

- 早朝と日中の気温差が大きく、体調管理にとまどいを覚える日が多い4~5月でした。会員の皆様はいかがお過ごしでしたでしょうか。学校の現場では、早くも学校プールで子どもたちの歓声が聞こえてくる季節になりました。
- 会報「まほろば」26号をお届けいたします。今回は「会務報告」を詳しく掲載いたしました。会員の皆様がそれぞれの分野で、素晴らしい活動をされている様子の一コマをご覧ください。
- 各支会・支部においては、地域の実情を考慮された真摯な取り組みを通して、会員相互の親睦を深めておられる様子が伝わってきました。運営されている役員の皆様に感謝です。
- 表紙の絵は、亀川裕子氏(昭43卒)にご提供いただきました。力強い筆致に接し生きる力が溢れます。
- 同窓会の活動にご支援ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。
- 会員の皆様からのご支援とご協力をいただき会報を維持できますことを嬉しく思います。ご投稿をお待ちしています。

平成25年度広報委員会委員(五十音順)

北 良夫、久保三左男、倉本政太郎
染井真由美、中村 利典、橋本 清
松原さおり

平成25年6月23日 発行
奈良教育大学同窓会会報「まほろば」第26号
-題字 故川淵勝男元会長-
発行所 奈良教育大学同窓会事務局
〒630-8301
奈良市高畑町 奈良教育大学内
☎0742-27-9105(総務課経由)
郵便振替番号00900-2-9400
発行兼編集 奈良教育大学同窓会広報委員会
印刷所 関西印刷株式会社
奈良市南半田中町19-20番地